

郵便便か



東京本郷西片町

十番地ろ一三

後藤芳春 様

金山

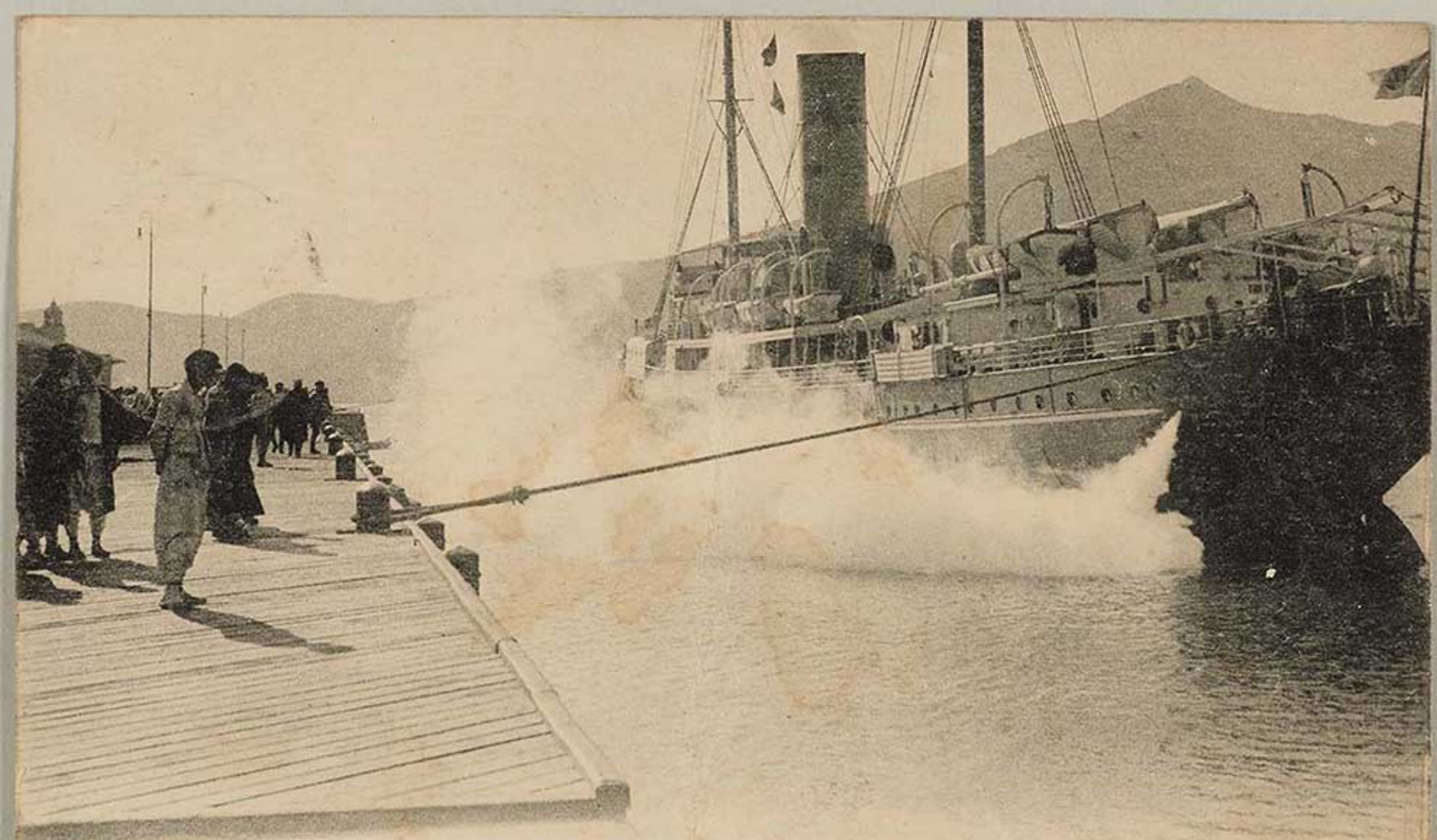
慶二

UNION POSTALE UNIVERSELLE.  
CARTE POSTALE

こゝろ弘済丸ひ今  
金山につきては  
海は比上ない静か  
安眠か出来たり  
討島から日車の方  
け自い面出かか  
て朝鮮の方はよく  
居まき、処々赤く  
は金山がまきれ  
標格へ下りると  
くお目に付きま







(行發店高竹吳山釜)

景ノ港入丸濟弘橋棧山釜



郵便はかき

後

西片町十、三

東京本郷

後藤芳木の如

草紙

後藤芳木の如

POST CARDE

昨夕、宮井、殿

天の巻山から子

ねて是れまじり

明朝辛城と出

た片一途中清

所、ようて行く

えい、ひす昨日

から雨の降る

あ、一、一、一

三、三、三





(169)

Meal hall country Place. 家飯膳一ノ舍田 (俗風鮮朝)



郵便はかき



東京  
本郷區

西  
町  
十  
三

後  
に  
よ  
り  
打  
芳  
本  
打

東京  
城  
館  
二  
番  
目

後  
打  
勝  
慶  
二

POST CARD

CARTE POSTALE POSTKARTE

十三日の午後九時京  
城に着く市街は中  
賑かで大変な暑さど  
もある、電車もあし  
夜間は切通しの方  
通る位に見えたり三  
越え居たりも自につい  
た、汽車の中は随  
分暑かったが夜にな  
ってはそんなこともし  
たかった、今日も  
天ははすき〜〜〜





一ノ其室客本日 箱城巴城京



郵便はかき



東京市

本郷區駿河田町

十月三十

後藤 芳香 柳

平壤柳也

慶二

UNION POSTALE UNIVERSELLE  
CARTE POSTALE

昨日牡丹台と見物

した中々いところ

た 二十五日

雨が降りつゝたため

大同江が増水した

江西、鏡南浦等

洞等と見物した

水余のため流車が

不通したうんが今日

戻通したうんが今日

一軍で帰る(年)

いっく 二十七日





(行淺禪言葉繪中田)

No.5

The Genbu gate

む望を臺蜜乙、て隔を門武玄

(曠平鮮朝)



郵便便かき

東京本郷區

西町十、三

後藤 芳白 様

大邱

後藤 慶二



POST CARD.

THE ADDRESS ONLY TO BE WRITTEN HERE

昨日清州へよつて一晩

泊りましたお父さん

の方之案内と品物

ました。官舎のそばに山

かまうところの山を

方々見えます山の後

ろ、谷に孔子廟かまう

巖西里と云ふ村にた

てあるのが美術院の画

にやうやくして

今日汽車で大邱まで

来ました

十九日

13-03-22





(行發館真寫路中目丁三町本州清)

」 通 町 本 州 清



郵便はかき



東京本郷

西片町十三

後藤芳香

京都  
慶應二

POST CARDE

今日ハ京城滞

在画舫夕との

社をの聞く、また

お教の芳名由の板

名いたるうたことを

か聞く、

知新人の所

足印しん

こはは京城で書いた

のえ今慶で出す





(1428) NATIVE SCARRYING THE GOODS 運物ノ子親 (俗風鮮朝)





東京本郷區  
西片町十、三  
後 甘藤 甘方 香白 村。

13-03-35





忠  
禧  
有  
還  
扶  
余

禮  
一  
九  
四  
分

慶  
二



大正四年七月十八日

No. カ

手紙は慶州を受くた、二晩泊りで仙回寺、石室庵など云よところ  
と廻って慶州へ帰ったら宿のせ中がよき紙が昨日着いたと云って出  
した。

へふからまとは汽車中で認めよ。今大邱から井田は京城行の汽車に  
乗って居るところだ。昨日午後二時の慶州を立って自動車で大邱へ  
出て泊った。今日午前慶州(慶北)へ行って晝飯を喰ひて午後  
一時の汽車で連山まで行く。汽車に乗るに込められたが、此から大田と

云ふところだ。妻も替へて本領を分けて連山と云ふところまで行く  
が、ある。自動車は涼しかったが汽車の中は随分暑い。道路の両  
側は赤い山々の秀山ばかりで平地には水田が作つてある。田植はもう  
九分通り済んで一面に青々とて居る。ところどころに鮮人の家屋がまのこ  
ろに散在して居るよか見えよ白い衣物を着て冠をかぶった朝鮮  
くも水瓶を頭へつけて運んで行く朝鮮婦人酒の太川の河岸に



い下ある赤牛など皆輝く太陽は照り付けらるる 大正のやう暑い

今汽車は杖尾嶺と云ふ驛に停つた

手紙を受とりて嬉しくあつた すぐ封を切つて読みかけたが前編

風呂があらはらぬのはいいと云ふおとどろちのひ風呂のころうて

大概に汗を流して来てまた読みながら 暫くしてまたまた

読み返しては翌日名洋邸のかしこつと持つて行つた さいは

事を書かかと思つたらが仲々書く暇がない 夜は大概毎晩客が

つめかけて来た十二時頃まで居る 一時半ころまで居るころとあ

る (今更手紙を書いた店々ところは忠清南道又扶余と云ふ

ところだ云ふ地には廿一のまゝに居る 豫定は太田で身うか

へて連山まゝ行くやうに書いたが急に太田で泊ることに替つて

おまの連山まゝに汽車のつてくるよ地の古蹟と見物してまた汽車

の論山まゝ行つてここから人力車に扶余にいったら扶余

大正 三 月 廿 日



3  
No. 2

大正 年 月 日

は昔の百濟の都のあつたところだが今は淋しい町は町、近くに白馬  
江と云ふ河が流れて、扶蘇山と云ふ山が川に臨み釣臺、落花岩  
などいふところがある。い、早稲の谷などところだが、草花も  
多く見物には行つて見ない。日中は随分暑いが、これほど暑くもな  
らない日にやけて、まう黒になつた。えりくいと腕が日に焼け  
てびりびり〜、いたい、身軀の具合は非常が悪い、暑くつて、少  
しよわらない、朝鮮の水が悪いから沸かした湯を飲んでは居ても  
余程用心しないといふ腹下〜を飲むと云ふ水も未だに、また腹下〜  
はやらない時々水を飲むけれども何ともない、然し流行病の  
用心はして居るから心配なくともい、この田では、鯉、鉦や  
太鼓などいふ遊具〜をかく田の草をさつて居る、昔の田楽と云ふ  
のみよくんちやいふ〜(かまもかきんちやいふ)は、この田の〜(かまもかきんちやいふ)  
もう八日ほどか〜(かまもかきんちやいふ)日記の少〜(かまもかきんちやいふ)早く〜(かまもかきんちやいふ)

朝鮮半島



4  
No. 1

大正 年 月 日

をこまに。一雄と丈夫むまらむ何よ仕合せを暫くの間おげれども  
まっとかほつたらう早く来たと思ふ

ゆいねむいからいれむけに。思くもうと書かると思ふとたん  
居（居）くたすからいれむけに思く。

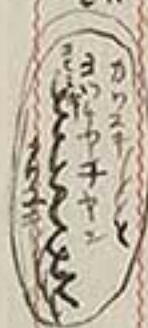
もう八日したや。思帰つたかかから淋しおろがに待つて居たにいで

東京つ着くときは電報を打つ。停車場に  
はまつと嬉しいねユキイト思つかす。

（受取）

芳香様

慶二



（印）  
顔と見よとき



其後は丈夫です。日に焼けてまうくろになうまうた。

日中は遠く照り付けて暑いが朝夕は涼しいので楽です。はる中は昔々新羅の都の跡をあらわす慶州に滞在して古墳も発掘して、付近の古跡を見ても廻つたりしました。古墳からは純金の耳飾りの大層立派なものが出ました。葉巻のやうな形のものも新しいやうに金々あつて居ました。昔の百濟の都のあらうところ

今扶余と云ふところには居ました。昔の百濟の都のあらうところをみす風景のいいところが所は淋しいところのみす。はる佛国寺と云ふ寺と。南山里と云ふ村の両斑の家泊つて朝鮮のやうな食へました。とても喰へられないと云ふ人々あつました。かえんなにまかいこもあまりよせんでした。慶尚北道には朝鮮海でヌクテ(豺)と云ふ獣が出て度々喰ふか食はれます。狼ややうな獣も山獣です。ヌクテの皮を見せしてもらいます。たが全く犬と全く似て



先日捕ったヌクテの腹から小供の手が出たのでアムコーン漬け  
 にしたのでも思いました。その前の日に小供が食べはいたりと丁度おまじ  
 狩り取ったのかさうです。その辺には虎は居ないやうですが。  
 は居るやうです。仙岡寺の山の上にも出たさうです。雉は沢山居ます  
 畑の中をいんちきりして居るのを多く見かけます。  
 今は大抵のところは内地人の宿屋が並ぶので不自由はさうは  
 せん。道と立派なのがついでに居ます。人カ車も大抵のところは通  
 りせうです。尤も今泊る所は扶輪には人カが二合きりかたさう  
 つまろ人カが通らぬところは馬で行きます。馬の旅行が一番面白い  
 やうです。

唐文二



郵便便紙

東京市本郷區

駒込西片町十一、三

後藤 芳杏 様

慶二

長髮 七日



POST CARD.

POSTKARTE.

(FOR ADDRESS ONLY.)

CARTE POSTALE

13-03-39

六月二十五日、

浦項ヲ出テ又昨日、

馬込南城洞、日月里

ナドヲ見物シテ長髮

(千ヨニギ)ト云フトヨロ

ニ着ク、南城ノ山上ニ古

イ城跡ガアル山ノ麓ノ松ノ

梢ニ鷲(ハクセ)ト云フサ

キノ大キナヤウナ鳥ガ沢

山巢ヲツラテ居ルノヲ

見タ、日月里ニハ日月池ト

云フ池ガアル昔新羅ノ代

ニ迦鳥、細鳥ト云フ夫婦

ノ仙人ガアツタガ日本ニ渡

クテニマツメタン新羅ガ

國ニツクシマツタコノ池上

テオ祭ヲシテマタ日月ガ



城外へ出テ  
 杖履ノ方ヲ  
 眺メルヲ  
 イヤラテアル  
 途中ハ憲  
 兵隊カラ  
 神助員  
 ガリ郡  
 魔カラ  
 即モ  
 記カヌ  
 ハ敬言  
 察ナリ  
 ラシ  
 査ガ  
 安木内  
 ヒツイ  
 下木  
 テシ  
 ルテ  
 安心ナモ  
 ノガ、

長鬚目ト云フ  
 町ハ小高い山ノ頂  
 ニアル周曲ニ石ヲ築  
 イテ城壁ヲメクラニ  
 ソノ中ニ家ガアル様ニ  
 イトコロダガ昔ノ狭イ  
 客舎、郡廳ナド  
 ノ建知モアリ  
 一寸蓋アル村ガ  
 コ、ニモ日本人ノ宿ヤ  
 ガアルモ家ハ朝鮮  
 家ノ屋ダガキタノイコトハ  
 ナイ今ハ夜ハイ、月ヲ



月村ヨリ長鬚目ヲ望ム  
 六月二十五日





郵便便かき

東京市本郷區  
駒込西守町十、三  
後藤芳香標

慶二

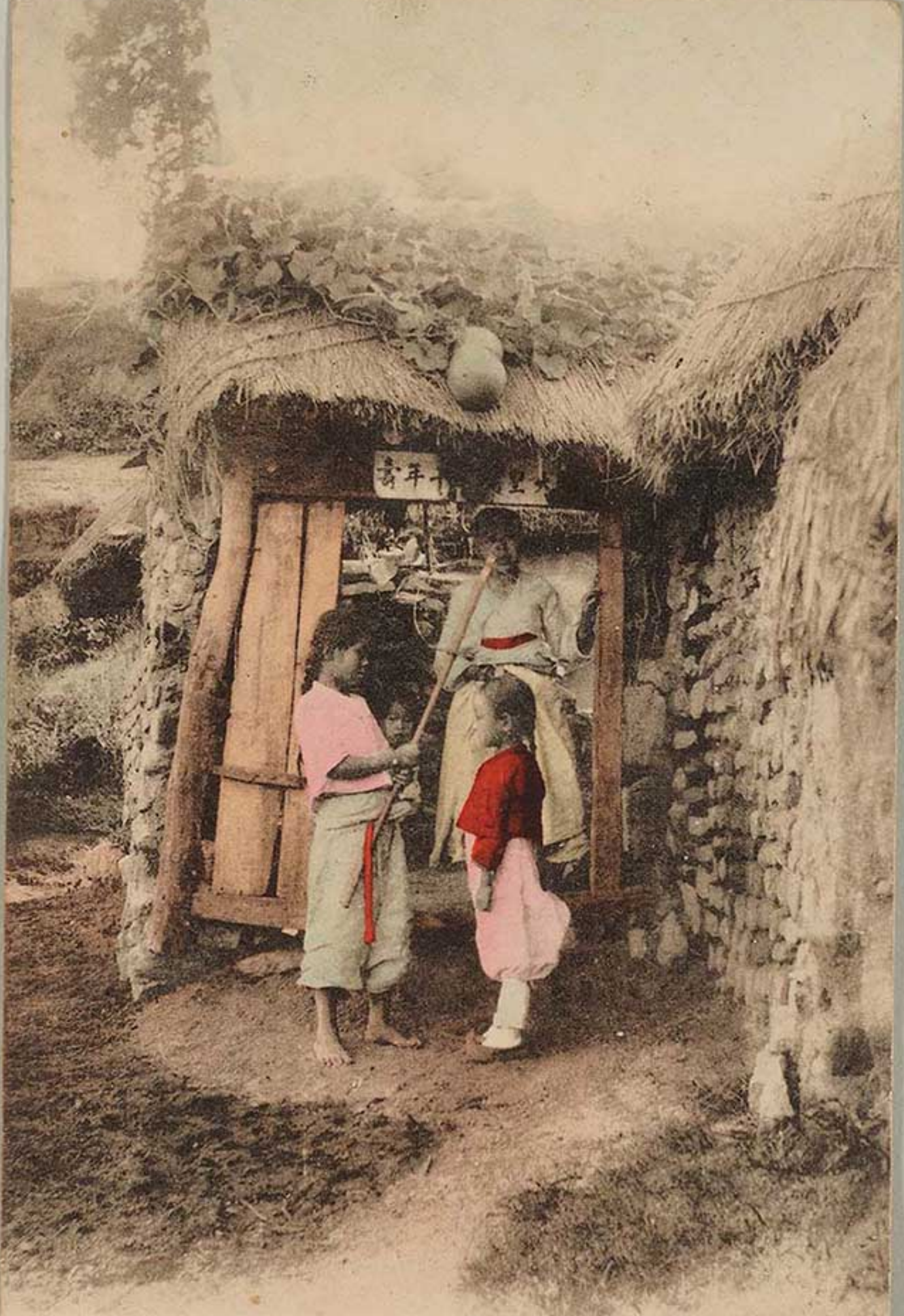
POST CARD



今年懐行の汽車  
中一に九分。今日は  
あんまり暑く  
たい少一雨が降  
った。懐行は二日  
かり居て帰京す  
る。七日は若松に  
たつ。あつ。きそくと  
今日一杯は東京の  
着く。今汽車が  
沙里院驛に到着した  
廿二日

13-03-43





(4388) House at Country 屋家、舍田 (俗風鮮朝)



郵便便かき



東京予本郷区

駒込西守田十三

後藤芳香様

慶尚北道慶州

慶州旅館 後藤慶女二

Old Post

大邱から慶州まで十六  
里ほどの間に自動車か  
ある、一昨日慶州につい

て今滞在して居る。旅館  
の前に朝鮮の酒やがある、

朝鮮式の蕪草葺屋根がいく  
ち重なり居る。先には茅畑が

ふいて、余り高くはないが  
連山が横けり居る、山の上

には半月がかか、つて居た。前  
の酒屋で朝鮮人がととま

る朝鮮の酒をうたつて居  
た、夜のふけ、まゝに推し

押し、同様に  
左軍調な節を操りか、

操りか、月が山  
の端へはいつてもまだ、たつて居る。

13-63-44





(伊藤愛春堂發行)

清州之清州橋より大宮を眺む



# 拜啓仕候

陳者時下益々御清適奉賀候却說過日御來邱之際ハ特ニ弊館へ御臨足被下  
難有奉萬謝候殊ニ御滯在中ハ萬事不行屆勝ニテ誠ニ恐縮ノ至リニ堪ヘズ  
候尙今後ハ一層ノ注意ヲ相加ヘ可申候間何卒倍舊御引立ノ程偏ニ奉願上  
候先ハ乍略儀謹テ茲ニ以葉書御禮申述可ク如斯御座候

## 敬具

朝鮮大邱府驛前

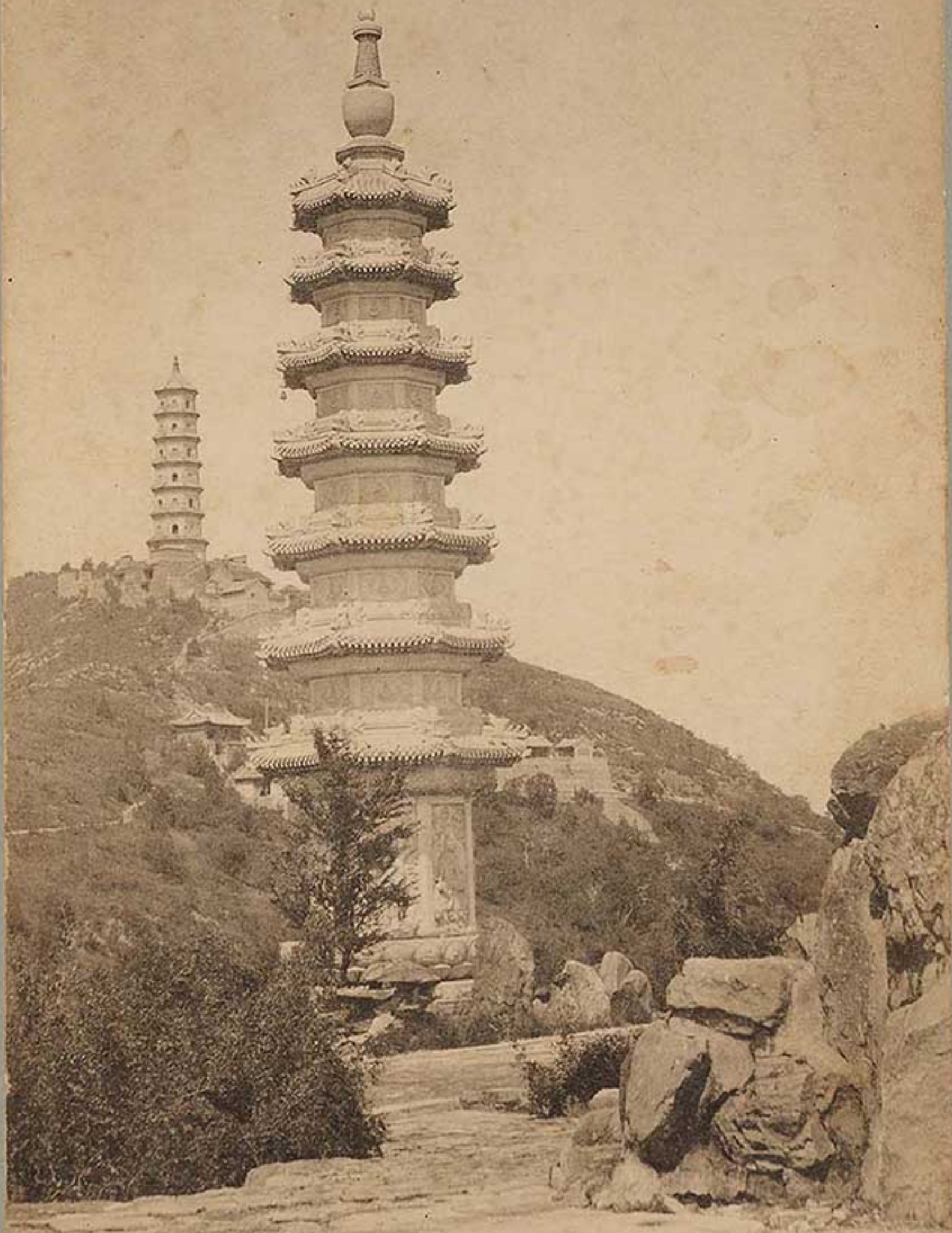
日  
唯家旅館

城戸唯治郎

電話四七番







Yaichuansan, Pagoda, Peking.

塔山泉玉京北



01-04-03

きかは便郵



東京本郷区西片町

十番地口、三

後藤 慶二様

清口並京外城白紙坊

葉勝建築公司

石山町

三月廿日

CARD

先生其存の意外のは世の法、  
 折退がかり増と早も気が加  
 る時何率は清の適よ返ばされ  
 んるを折上の降しおまの神め  
 程、支那の不街系思臭の列了き  
 事、堪りぬ様思ひ居りんが  
 昨今、吾少鼻の中又現場、  
 も何ふまれの故愉快も清光器在  
 其れも古様持保は先生もよは知あり  
 銘木先生ともは一徳の甫も何ん  
 と心五沛をて下請、有ら謝意下  
 居り、何れも先生の世法、あり  
 し効あり、この方の居る、居る、其  
 別候ひけりあり、事務、居る、故  
 石山町、休心、業、序、小  
 支那の建築物の、余、成心  
 中、鉄、の、す、り、く、共、信、業、書、を  
 見付、治、身、時、は、送、り、わ、土、へ、ん



郵便はかき



東京本郷西ヶ田

十才地子三

後藤孝子持

慶州旅館

慶二

印刷局製

逓信省發行



モシ用事カア  
レバ  
朝鮮總督府  
内務部気付  
ニテ手紙ヲ知セバ  
届ケテタレル



甘浦

三十日ニ

蔚山ヲ至リテ  
慶州ニ着  
当分ノ地ニ  
滞在シテ  
附近ヲ見  
物スル者  
日ニヤケテ  
マシ思ハ  
ナク夕  
身持ハ  
丈夫ガ

七月二日





郵便は便利

東京市本郷區  
西守町十一番三  
後藤芳香様

扶桑  
余

慶二

印刷局製

逓信省設行





峠、新道  
林川

昨日扶余を出て鴻山と云  
ふところへ行きて無量洞  
まゝ行き、無量寺 桃花潭  
たふを覚えて鴻山まで帰り  
一泊、今日林川へまはして  
穴規山石里へ着、穴規山石里は扶  
餘の河向かたである。  
明日、公州へ一泊平壤へ  
出て帰途はつくま、  
○文探はあか、引續いことごと





東京  
八月八日  
郵便

郵便はか

東京本郷區

西守町十  
三

後  
廿  
方  
香  
打

慶北  
慶州

慶州旅館

慶二

印刷局製

逓信省發行

13-03-27





昨日境中から立  
派な金の耳飾り  
が出た  
慶州滞在  
古墳発掘中  
Tokyo



郵便所

東京市

西片町

十土田

後藤 芳香 様

東京市

十七

後藤 芳香 様

(For ADDRESS)

CARTEPOSTALE

今日の景徳  
宮を慶福  
らんとて見た

慶福宮の  
葉未 秘苑

ゆ奈の  
やうい実

の 翔 鮮

建築

はな

13-03-29







郵便便かき



東京市本郷區

駒込西片町十一丁目三

後藤芳香様

蔚山

慶二

印刷局製

逓信省發行





蔚山本府



六月二十八日  
昨夜八甘浦トム  
海濱ニ泊、昨日  
曉星岫ヲ越エテ  
蔚山ニ着、朝日  
清クノクアコモリシ  
蔚山ニ着、朝日



郵便便はかき



東京本郷  
駒込

西  
丁  
十  
三

復  
藤  
芳  
香  
楼

(FOR ADDRESS ONLY.)

POST CARD.  
POSTKARTE.  
POSTALE  
CARTE

13-03-45

廿三日ニ慶友州を立つて  
て安康と云ふところ  
に来りました。朝鮮馬  
に騎つて行くのですが  
冠を着けた馬夫が  
細い棒を持つてついで  
て来るところは一す  
と変つた所です。興へ  
徳王陵と玉山書院  
とを見て安康へ二泊  
し、した玉山は谷  
川に臨んで瓜菜のついで  
と二泊して安康  
の宿は内地人の宿に  
した。家は朝鮮家  
で三畳敷のこの室  
へおきて



兎山頂神廟神躰

